ホア　ビン　（平和）
HOA BINHレポート

JVPF 内閣府認証 特定非営利活動法人 日本ベトナム平和友好連絡会議（日越友好連）
NPO Japan Vietnam Peace and Friendship Promotion Council
〒162-0801 東京都新宿区山吹町333番地 辻ビル405　TEL 03-3268-4387　FAX 03-3268-6079
c/o. IFCC.#405,TsujiBLD,333,Yamabuki-cho,shinjuku-ku,Tokyo,Japan　TEL(81)3-3268-4387/FAX(81)3-3268-6079
http://ifcc1985.com　jvccpf@rmail.plala.or.jp

49号

会費／正会員：(個人)5,000円（団体)50,000円 口座名／日本ベトナム平和友好連絡会議
◎郵便振替 00110−2−188872 ◎三菱UFJ銀行・江戸川橋支店(普通)1215225
◎ゆうちょ銀行・〇一九(ゼロイチキュウ)店(当座)0188872

NPO・JVPF 第13回総会報告

活動開始20周年
コロナ禍の下で日越交流の意義とあり方を確かめる

開催について諸事検討しましたが、2020年5月30日、明日香学園会議室（大分市）で予定通り総会を持ちました。JVPF20 周年を記念し、次への飛躍の意思統一を図ろうとした第13回総会でしたが、大分県在の会員らと理事長、副理事長のみの総会となりました。

2015年・ホーチミン市で行われた解放40周年パレードの少数民族衣装の女性兵士たち。
今年の解放45周年式典はコロナ禍で中止され、JVPF 記念訪問団も実現しなかった。

・総会では 20 周年記念事業として前年度から準備してきた活動のうち、20 周年祝賀会の中止、20 周年記念訪問団の中止、2020 枯葉剤被害者支援ベトナムアンサンブル公演の中止などを確認しました。多大な活動自粛をせざるをえなくなりました。
・しかし「人と人との交わり」「結び合い」を旨とした JVPF の活動にとって、間違った“自粛”は“自縛”に通じます。「自律し粛々と」した活動を進めたく思います。“持たざるものたち” の活動の源泉は友好、交流にあります。枯葉剤被害者の生活と“わたしの体の中では戦争が終わっていない”という叫びは、わたしたちの自己都合を待っていてくれません。

・2019 年度からハザンで開始した「仁愛の家」寄贈活動を履行するため、枯葉剤被害者支援事業の支援活動基金のカンパを実施することに致しました。
　また、埼玉 JVPF はクアンナム省で枯葉剤被害者家族のための「仁愛の家」寄贈活動を続け 2020 年中に 50 軒を目指しています。
・活動の大きな柱である少数民族学生奨学金支援事業は 2019 年度、ハザン省、クアンチ省、ラムドン省で実施されました。
　ハザン省では奨学金支援事業は当初予定の四期を終えましたが第五期(2020 年度)へ継続していくことにしました。
　また会員の（一財）時遊人は北部トゥエンクアン省で、「ふぇみんベトナムプロジェクト」はダナンで、それぞれ貧困家庭学生支援事業が続けられています。

・新型コロナ（COVID-19）禍のなかでベトナム政府は「ベトナムは小さな国で貧しい国です。感染者が増えたら困ります」と国民に呼び掛けました。感染者の大半は海外から入国した人で、死亡者もゼロ人です。その底流には“支えあい、助け合い”があるようです。特に感染者を“労わりましょう”という呼掛けには感銘します。学びたいものです。

（副理事長　鎌田篤則）

本号の内容
●ハザン省で枯葉剤被害者支援『仁愛の家』寄贈活動／２Ｐ
●投稿：コロナ禍死亡者ゼロの国／4P
●JVPF 大分県支部結成報告／4P
●第13回総会報告／５Ｐ
●2020 ハザン少数民族学生奨学金贈呈式／７Ｐ
●寄稿：ベトナムの風にふかれて／８Ｐ
●掲示板・短信／8P

枯葉剤被害者支援　2020 春 訪問団報告
～ハザン省で枯れ葉剤被害者家族へ「仁愛の家」寄贈活動始まる～

ハザン省①Bac Quang 郡 Bang Hanh 地区 Trung Tam 地区
「仁愛の家」を寄贈

香川 JVPF　内藤哲士

2020春ベトナム友好の旅 （ハザン省第四期奨学金支援）に2020年1月10日～14日に参加しました。

私を含め数名の方は、初めてのベトナムであり、初参加でした。北部ハザン省まではマイクロバスで移動でした。空港から30分程度走ると、周りはのどかな田園地帯で、ベトナムは、旧暦を使用しているため、1月25日が正月であるが、田植えの時期でもありました。田植えについても水牛で田畑を耕し、人の手で稲穂を植えていく作業でした。田植えは、地域住民の手をかりながら協力しあい田植えをするものでした。田植えをする光景は、大昔の日本国そのものでした。

ベトナム戦争で使用された枯葉剤被害者家庭調査・慰問活動の中で今回から「仁愛の家」寄贈プロジェクトが開始されることになり、被害者宅を訪問しましたが、凄まじいものでした。

チェン・タン部落の Hoang Van Khoa さんのお宅を訪問し、生活状況を聴き取りました。

――本人（ご主人）はベトナム戦争時代に兵士として参加し、その時に直接枯葉剤に曝され、その後、後遺症で身体がとても痛く働けない状態とのこと。子供は2人いるが（男性）長男は戦争前に妊娠していたので影響はないが、次男については、戦争後に誕生しており、枯葉剤の影響で知的な障害を持つているとのこと。本人が枯葉剤の影響で病気がちであるため、十分な労働ができず、家族が食べていくのが精一杯の生活で、家族も困窮している。――

現在の Hoang Van Khoa さんの家屋の模様

こういった方がたに家を寄贈する活動が「仁愛の家」寄贈活動で、今回 Hoang Van Khoa さんに1500 万ドン（日本円で75万円程度）を贈りました。レンガ造りの家の囲みだけでも日本円で40万円程度のことでした。

これが、現在のベトナムの枯葉剤被害者の貧困状況でした。

“南部解放・統一 45 周年の年に

2020 年 1 月、JVPF 訪問団（1 月 10 日～14 日）が北部タイビン省で枯葉剤被害者家族慰問・調査と被害家族への「仁愛の家」寄贈を行ってきました。

これは 2019 年のチャリティー公演での支援基金に基づくもの。2020 年のチャリティ―公演が中止となりますが、支援継続が求められています。

さいたま JVPF の平松伴子・副会長らが進めている中部クアンナム省での「仁愛の家」寄贈支援は、都合 50 軒を目指し最後の 10 軒分 200 万円が今年届けられる予定です。

左上：1500 万ドンを Hoang Van Khoa さんへ
左下：Hoang Van Khoa さん、奥さん、次男を交え聞き取りする訪問団一行。村人も参加し見守る。
下：　川畑 JVPF 団長、LY THI LAM ハザン省外務局局長、Bac Quang 郡労働福祉局長（右から）で贈呈調印式

ハザン省②Bac Quang 郡 Thanh Binh 地区
レンガ作りの家が欲しい

東京　金井明一

環境の私的感想

何とか車で行ける所であったが、農業を従事するような場所ではないような環境。ジャングルとまでは言わないが、開墾している様には見えない。母屋も、壁は父親が作ったと言っているが、外が見える隙間状態。冬季（寒い時期は 6℃）には、とても過ごせる家ではない。煮炊きは火を熾して鍋ややかんを使用している。電気は通っているが、無料ではないので使用していない。現在は自給自足、夫婦二人で暮らしている。大変そうなのは、冬を過ごす住居と水を山から背負ってくることか。

○チャンビン地区（家族が住んでいる地区の状況）

・人口　615 名　160 世帯　主な仕事：農業

※家族が連絡する人は、この村の村長（女性）

○家族構成

Lo Thinh Ngoi さん一家は 7 人家族で父母・子供 5 名。

父：1949 年生まれ（71 歳）ベト族、母 1953 年生まれ（67 歳）。子供：長女　1972 年生まれ（享年 47 歳　2019 年死亡）、長男　1974 年生まれ（46 歳）、次男　1977 年生まれ（43 歳）、次女　1987 年生まれ（33

歳)、三男 1990 年生まれ(30 歳)。

・長女は生まれた時から障がい者である。頭が大きく、全身に痛みがあり特に背中の痛みがあった。頭は水頭症の可能性あり。長女の死因は枯葉剤の影響かどうか、バ

手作りの竹の壁は寒風が厳しい。左から Ngoi さん、妻、娘さん。

ックアン郡の病院で判断してもらったが証明するものがないとして支援を受けられなかった。他の子供は障がいが無いようだ。

・子供の教育は小学校まで(義務教育は中学校まで)であり、その後は農業に従事している。家族同士近くに居住している。長男は隣の家に住んでいる。

○政府の支援

・枯葉剤による、影響かどうか判断が付かないため、認定されていない。よって支援を受けることはできない状況。以前は VAVA(枯葉剤被害者協会)による支援もなく何ももらえなかったが、最近は家の柱を建ててもらった。

○父親の経歴・職業・健康状態

・経歴、職業

1964 年～68 年まで、中部地域のクワンチで激しい戦闘に従事していた。ベトナム戦争前後とも農業を営む。自給自足の生活になっている。戦争後は、現在の妻と結婚して少しの米と野菜を売っている。

・健康状態

身体全体が痛く痒みがある。無料で医療に掛かれるので、家族の健康状態は医者が判断してくれる。

○孫の状況

・長女の子供は、知的障がいがあり目が良くない。

○これから生活するのに必要なもの

母親からの要望は、煉瓦造りの家がほしい。

ハザン省枯葉剤被害者協会(VAVA)を訪ねて
子どもたちに伝え続けたい

東京　木原　勇

2020 年 1 月 11 日(土)午後 2 時ハザン省の枯葉剤被害者協会を訪問し、「仁愛の家」寄贈に先立ち、ハザンの枯葉剤被害者の状況について意見交換しました。

VAVA には、枯葉剤被害者はどれ位いますか。また、リハビリのための施設・病院はどうしていますか。政府から枯葉剤被害者に支援はどのようになっていますかーーとの質問へ応えて

ヅン・ティン・スアン会長よりーーハザンの全ての枯葉剤障害者は、認定されている人が 1071 人。この内 831 人が直接被害者です。240 人は、その子ども(第二世代)です。リハビリ施設はありません。毎年、17～20 人、ハノイの解毒センターに行き、解毒を行なっています。

また、毎月 1071 人は、政府から援助金の支援を受けています。

国から援助金を受けている人は、ランク付されています。ランク付けは、戦争後遺障害として、病院に行きドクターが判断しますが、認定されるかが、難しいです。

0%-20%は、支援対象外。

21%-40%は、180 万ドン。(日本円で、約 7 千 200 円)軽度障害。

41%-60%は、260 万ドン。(日本円で、約 1 万 400 円)中度障害

61%-81%は、350 万ドン。(日本円で、約 1 万 4 千円)戦争に行った労働できない重症者障害

第二世代でも、労働できない人(終日、ベッド生活)がいます。

しかし、1100 人は、国から認定されていないので、支援はありません。戦争に服役した証拠がない人は、手続きができないのです。

その人達をハザン政府労働福祉局が協力して 300 万ドン(日本円で、約 1 万 2 千円)を支援していますが、毎年、1 回だけの支給になります。

枯葉剤後遺症の人は、民間人もいますが、ハザンは、直接影響はありませんでした。中部では直接被害もありますが、北部はなかったのです。

枯葉剤後遺症の人がいて、周囲の人が知っていても、みんな隠しました。障害者だとわかると、結婚ができなかったりしました。

続いて「解毒は第一世代が対象ですか」との問いに、――枯葉剤には遺伝障害があると思っています。実際、子ども世代にその後遺症があり、孫に引き継ぐ影響も出ています。第三世代に被害が出ているのです。

VAVA との会談を終えて。中央が会長。

また、「働けない人が、政府からの毎月 350 万ドンの援助金で生活できるか」との質問に、――妻は政府から 110 万ドン(日本円で 4 千 400 円)お金が出ていますが、足りません。農業で自給自足をしていますーーとのこと。

現状、後遺障害があり差別を受けていると話されーー結婚はしないし、できない。

それは、差別からくるもの。第三・四世代は、枯葉剤の影響を大変気にしている。第三世代の 241 人は、枯葉剤被害者です。第五・六世代にも影響が出ているケースもある――とのことです。

第三・四世代は、国が認めれば、援助金は出るが、国として後遺障害と認めていても、援助金の対象としては認めていないケースもあるようです。

ヅン・ティン・スアン会長はもと陸軍軍人。1974 年に入隊。1979 年、中国戦に行ってました。2014 年に退役。会長は、枯葉剤被害者ではありませんが、VAVA の活

贈呈式に先立ち、プロジェクト・カウンターパートのハザン省外務局と会談。前列右が LY THI LAM ハザン省外務局局長

動に参加し。2017 年に会長になりました。傷痍軍人でも資金を集める仕事ができると考えたからです。

会長の知名度を生かし、支援金を集めました。それでも足りないので、ファンド（基金）を作りたいと構想していますが、農業地帯は、みんな生活に困っていてお金が集まりません。もっと多くの周りの人に支援を求めていますが、ハザンは工業団地でもありませんので、厳しいです。

以前、死んだ後に、認定がおりた人もいました。

戦争が終わり、田舎に帰ってきた。でも、戦争に服役した証拠がない。ボロボロになった服役書を持っていた人もいましたが、正確なものではなく、証明書にならないと言われた方もいるようです。

会長は最後に「VAVA の活動として、子どもたちにこの事実を伝えたい」と考えていました。「学校・政府・VAVA が、協力して伝える必要がある」と。枯葉剤は危ないと伝えていくことが大切と力強い発言を聞き、協会の訪問を終えました。

投稿

新型コロナ（COVID-19）禍による死亡者ゼロの国ベトナム

ベトナムのことを知ることは不都合？

日本のことについては、皆様ご承知の通りですが、アメリカや中南米、そしてヨーロッパの感染者や死亡者増大に関するマスメデイアの取り上げ方は異常だった。その中でベトナム国の「死亡者ゼロ」についてはほとんど日本のマスマデイアは取り上げてこなかった。なぜか？ このような国があることを日本国民が知ると「不都合な輩」がいたからだろうか。緊急事態宣言後、一部テレビがベトナム国の「死亡者ゼロ」に言及したにとどまる。

初期対応のすごさ

・ベトナムの第 1 段階には、1 月 23 日に初めて在ベトナムの中国人感染者 2 人が発表。その後、19 年 11 月に中国武漢市に研修滞在した会社員 6 人からの感染が確認。ベトナム政府は最初の感染者を発表した後、接触者の特定・隔離や人々集中制限、学校休業等の迅速な対応を展開した。2 週間後感染者は 14 人になったが、最新レベルの治療方法を用いて無料で治療し、2 月 25 日までに感染者 16 人が全員完治し退院した。

その後 20 日間、新たな感染者は確認されなかったが、英国から帰国した 17 人目の感染者が発生、3 月 5 日から第 2 段階の感染防止策に入った。その後 2 週間で感染者は 68 人に増加したが、その内 59 人は海外からの帰国者。ベトナム政府は即座に 3 月 17 日に入国制限と入国者に対する査証発給停止を決定し、さらに 21 日には外国人の入国を一時停止し、入国者全員に対して 14 日間の足止め・隔離を実施した。

第 3 段階は、ハノイのバックマイ病院とホーチミン市のブッダ・バー（Buddha Bar）から感染リスクが高まった段階。この段階になると混雑した場所での感染であり、濃厚接触人数も多数となったため、改めて迅速な対策が展開された。特に、上記施設への来客者や関連した者に対して簡易検査キットで大規模な検査を実施すると同時に、4 月 1 日からは初めて全国規模で徹底した社会的隔離（移動制限）をした。

※この社会的隔離は，いくつかの国が行っているような国家封鎖ではない。これは禁止命令ではなく、政府指導者によって発出された勧告、制限、要請である。

この 3 段階に渡る 3 か月間の努力の結果として、4 月 23 日の時点でベトナムの感染者数は 268 人で、そのうち 223 人が回復し退院し、死亡者数はゼロ。そして 23 日から社会的隔離は基本的に解除され、現在もベトナム政府と国民は最高レベルの警戒を継続している。（キャピタル アセットマネジメント 2020.4.24 より要約）

現在（6 月 10 日）、感染者 332 人、死亡者ゼロ人。

・片や日本は 100 万人あたり死亡者数は 5.4 人で、韓国を抜き、アジアでワースト 2 位（5月16日）。

支えあい お米 ATM も活躍

・ベトナムでは社会的隔離を進めていたが、補償はないという。ではどのように、国民は生活防衛したのか

ベトナ政府は「ベトナムは小さくて貧乏な国。病院や医療レベルも低い。国民の多くがコロナウイルス感染になったら本当に困る。だから国のため、家族のため、自分のために、だれか感染症の症状があったらすぐに責任者に連絡して」と国民に呼びかけた。

・お米や油や食べ物やマスクや消毒など無料で貰う。ベトナムで名物の「宝くじ売り」も止ったが、売る人は毎日の生活のために政府から支援をもらう。

全国各地でボランテイアのスポンサーたちが貧乏人たちのためにお米 ATM（お金ではない）を作った。お弁当や麺の店も一日何百食も作って無料で困窮の人に配布した。また困窮者はスーパーマーケットでゼロ・ドン（ベトナムお金）日本円で 500 円ぐらいの必要な物をもらえる。具合が悪い時は医療ホットラインで連絡して医療スタッフが本人の家まで検診に訪れ必要ならば病院に連れて行く。

・コロナ禍対策について、ベトナムの国民の満足度は 93%にのぼった。日本は最下位の 37%だった（4 月 20 日現在）。

火事場泥棒を政府が先頭で推奨している日本と大違いだ。

（記：鎌田篤則）

お米 ATM でプラスチック袋いっぱいにコメを詰める女性（ホーチミン市）

大分で、念願の県支部結成

佐藤晴男会長

準備委員会結成後諸般の事情で遅れていましたが、去る 4 月 16 日、大分市の「ソレイユ」会議室で念願の「大分ベトナム平和友好連絡会」設立総会が開催されました。設立総会は準備委員会の仲間 12 名の参加で、同準備員会の佐藤晴男会長のあいさつと座長で進行し、事務局の田中由視さんの①会則、②役員の選任、③事業計画　等の提案を協議し承認しました。

会議のなかでは、特に、大分でも在留ベトナム人が増え、2019 年度で技能実習生約 2400 人、大学・専門学校留学生約 500 人で計 2900 人にも及ぶことから、生活や勉学の相談・支援等も「会」として行っていくことを確認して閉会しました。

1、当面するおもな活動

①会の普及宣伝と会員の拡大

②JVPF20 周年記念総会（大分開催）の受け入れ

③ベトナムアンサンブル公演の 10 月開催の受け入れ準備

2、役員体制

会長：佐藤晴男、事務局長：田中由視、名誉顧問：村山富市（JVPF 会長）を選任し、他の役員（理事等）は会員募集後、時期を見て会長が委嘱する。

NPO・JVPF 第 13 回総会報告

COVID-19 禍で 2020 アンサンブルチャリティーコンサート開催を中止せざるを得ないため、「枯葉剤被害者支援事業」の基金を創ることができなくなりましたが、総会では『枯葉剤被害者支援のためのベトナムアンサンブルチャリティーコンサート2020の中止と被害者支援活動の履行について』の特別決議を行い、友好交流を途切れることなく進めるため、<u>支援カンパを呼び掛ける</u>ことになりました。

5月 30 日「緊急事態宣言」は解除されましたが、第2波感染の不安を抱える中大分市で第 13 回通常総会が開催されました。

今年は結成 20 周年に当りコロナ禍で大きく活動が制約されることが予想されますが、困難な状況下でも JVPF 活動を継続・発展させるために会員・各支部での一層のご協力と取組みをお願いします。

2019年度事業報告

【組織活動】

1、2019 年度は、2020 年のJVPF 結成 20 周年に向けた諸事業を準備することとし以下のような活動に着手してきました。
　①認定 NPO への移行を具体化。
　②記念資料「日本の労働者とベトナム戦争」作成。
　③解放統一 45 周年記念訪問団の取組み。
　④20 周年祝賀会の開催
　⑤枯葉剤被害者支援『仁愛の家』寄贈活動

うち、⑤の枯葉剤被害者支援『仁愛の家』寄贈活動は実施しましたが、①～④はCOVID-19 禍により中断や作業遅延を余儀なくされています。

2、組織の強化発展のための活動について
　①認定NPOへの移行に着手していますが、2020 年度中には具体化を図りたく思います。
　②そのための一層会員拡大は世代交代などでの会員減で進んでいません。
　支部組織作りは JVPF 岩手が結成され JVPF 大分結成も総会報告できる運びとなっています。
　③会報『ホアビン』年 2 回発行し、会員連絡報は平年より1回増え3回発行、常任理事会は3回開催してきました。

3、各支部及び友誼組織の活動について協力してきました。福岡 JVPF は2019年8月、ハノイ大学短期研修～日本ベトナムコラボレーションプログラム～を実施、かがわ JVPF（KVPF）は2019年12月、「日越交流セミナーin かがわ」を開催。また JVPF 東京は5年目となる「テトを祝う会」を実施してきました。

4、各事業以外の活動として、JVPFの趣旨に沿った留学生斡旋事業を行い、2019年度（2019 年 4 月～2020 年 3 月）留学生紹介斡旋事業はホーチミンの村山記念日本語学校が 29 人という実績でした。

【事業】

1、教育支援事業（1）――少数民族出身学生奨学金支援

JVPF 及び広島 HVPF は以下のように少数民族出身学生奨学金事業を行ってきました。
　①北部ハザン省で少数民族中学生を対象に4年目の支援事業を実施（2020 年 1 月）。これは宮崎JVPF支部、かがわJVPF 支部、JVPF 岩手の他個人のサポーターが中心になって進め、1 期生 10 人は最終年度となりました。
　一期4年目 10 人、二期3年目 10 人、三期2年目 10 人　四期10人で都合 40人。※1 人 1 年間＝180ドル
　②またラムドン省の少数民族寄宿高校で鹿児島支部（2019年12月実施）が六期目 10 人の奨学金を実施しました。現在奨学生は 1 年生～3 年生都合 30 人。※1 人 1 年間＝15,000 円
　③クアンチ省では友誼団体の広島 HVPF が（2019年 10 月）十期目 20 人の奨学金を実施しました。少数民族高校生 1 年生～3 年生。現在奨学生は都合60人　※1人1年間120ドル。
　④この少数民族出身学生奨学金事業とは別の形で会員の方々は、それぞれ学生への支援事業を進められています。（一財）時遊人は北部トゥエンクアン省で、「ふえみんベトナムプロジェクト」はダナンで。

2、教育支援事業（2）――村山記念JVPF 日本語学校
　①当校が、設立趣旨に沿い日越の若者の橋渡しになる様学生たちをサポートしてきています。
　現在、ホーチミン市内の公立高校やラムドン省少数民族寄宿高校などでも「日本語教育プログラム」の出前授業を行っており、経営的には安定し留学生派遣も順調に推移しています。
　②JVPF20周年の年に村山富市会長96歳祝賀団が実施され大分を訪問しました。

3、国際協力事業（1）――枯葉剤被害者支援のための活動
　①JVPF設立の柱である支援活動を調査・慰問は2020年1月、ハザン省で実施されました。3軒の調査慰問を実施し、うち1軒に「仁愛の家」寄贈を行いました。あと2軒へ「仁愛の家」寄贈を現地から要請されています。
　②埼玉 JVPF は 2019年 8 月にクアンナム省への訪問団を実施。寄贈してきた枯葉剤被害者のための「仁愛の家」は40軒になりました。ちなみに 1 軒に占める寄付額は 25 万～30 万円

2020 年度の主な役員

<u>会　長</u>
　村山富市（元・日本国総理大臣）
<u>副会長</u>
　山下　茂（元・埼玉弁護士会会長）／兼・JVPF 会長代行
　佐藤晴男（元・総評会館理事長）
　川淵映子（NPO アジアの夢理事長）
　松浦正美（NPO ウオータービジョン理事長）
　赤木達男（広島ベトナム平和友好協会専務理事）
　及川光行（元・全労済宮城県本部理事長）
　大西繁治（前・JVPF 理事長）
<u>理事長</u>
　宝田公治（元・全労済香川県本部理事長）
<u>副理事長</u>
　鎌田篤則（IFCC 国際友好文化センター理事長）
　鹿倉泰祐（NPO 東京福祉・まちづくりネット代表理事）
<u>事務局長</u>
　仙葉　久（前・自治労本部副委員長）
<u>監事</u>
　田中秀樹（JVPF 東京世話人会事務局）
　道下劉生（一般財団法人・NGO 時遊人代表理事）

2020 年度の退任、新任の理事

退任理事：村上　要、田中　翔、道下龍生
新任理事：木原　勇、石川　稔

となっています。2020年中に新規10軒＝250万円寄贈で50軒を準備中です。

③枯葉剤被害者追跡記録DVD『トアとトゥアン』の上映活動は取り組めませんでした。

4、国際協力事業(2)――ベトナム民族アンサンブルチャリティーコンサート

①24年目のチャリティ―公演は 2019 年 10 月 17 日～26 日の期間、8 箇所(東松山、青森、盛岡、秋田、西東京、相模原、南魚沼、富山)でチャリティー公演、2 箇所で友情演奏会(埼玉・東松山市の小学校と西東京市の小学校で民族楽器紹介・演奏)を行いました。

来場者は約2,000 人、チケット購入協賛者は 2,800 人ほどとなりました。24 年目となった今回で公演数は385会場となり来場者の累積は約115，000 人を数えることになりました。

5、国際交流事業(1)――日本語研修

①この事業は実施の条件が整いませんでした。

6、国際交流事業(2)――文化・スポーツ交流

①2019年 11 月にオペラ歌手角田和宏さんがホーチミン国立音楽大学で声楽のマスタークラスを開催されました。

JVPF ホーチミン事務所がサポートしました。それに先立つ 9 月、同大学の声楽コンクール優秀者(ファム・カン・ゴックさん)を招聘し前橋でオペラコンサート「日本・ベトナム交流コンサート」が開催されました。

7、その他の事業(1)――会員及び企業の事業及び事業展開への「情報提供の事業」

①介護事業者からの依頼を受け、どのようなサポートが可能か検討してきましたが具体化に至りませんでした。

2020年度事業計画(要旨)

【組織活動】

1、2020 年のJVPF 結成 20 周年事業は COVID-19 禍によって大幅な活動制約をうけることになりましたが、「人と人との交わり」と「結び合い」こそが困難を乗り越える友好と連帯の活動であることを肝に銘じ、20 周年記念事業は可能な限り 2021 年度にスライドして実施します。

2、組織の強化発展のための活動について

①認定 NPO への移行に着手。そのための事務局管理体制強化。

②一層会員拡大及び支部組織作り。

③会報『ホアビン』及び会員連絡報の充実。

3、各支部及び友誼組織の活動の促進。

4、各事業以外の活動として、JVPFの趣旨に沿った留学生斡旋事業、及び在日留学生へのサポート、ケアなどの活動。

【事業】

1、教育支援事業(1)――少数民族出身学生奨学金支援

①北部ハザン省での少数民族寄宿中学校への奨学金支援事業の継続を検討。

②JVPF鹿児島支部のラオドン省少数民族寄宿高校での奨学金支援活動をサポート。

③広島 HVPF のクアンチ省での少数民族学生への奨学金支援活動をサポート。

2、教育支援事業(2)――村山記念JVPF日本語学校

当校が、設立趣旨に沿い日越の若者の橋渡しになる様その活動をサポートします。

3、国際協力事業(1)――枯葉剤被害者支援のための活動

①JVPF設立の柱である支援活動として調査・慰問を継続。

②開始しましたハザン省での「仁愛の家」寄贈活動を継続。

③枯葉剤被害者追跡記録DVD『トアとトゥアン』の上映活動。

4、国際協力事業(2)――ベトナム民族アンサンブルチャリティーコンサート

①今年で 25 年目となる公演開催を準備してきましたが、COVID-19 禍による開催条件制約で十全な準備活動に懸念がありますので、2020 年度開催は中止し 2021 年度へスライド開催します。

枯葉剤被害者支援事業は JVPF の活動の柱でもあり、2019 年から始めた「仁愛の家」寄贈の支援事業が中断されないよう 2020 年度事業で予定していた**コンサート事業収益 1,550,000 円の活動基金カンパを呼び掛けていきます。**

25 年目で初めて、このコンサート交流も観ることができなくなった。写真は 2019 秋公演から

5、国際交流事業(1)――日本語及び日本研修

村山記念JVPF日本語学校が企画する場合、訪日研修団を受け入れ。

6、国際交流事業(2)――文化・スポーツ交流

オペラ歌手角田和宏さんが進めている日越オペラ交流活動等をサポートします。

7、その他の事業(1)――会員及び企業の事業及び事業展開への「情報提供の事業」

会員や友誼的企業の要望に沿い、日越の橋渡しを務めていきます。

要望を受けている留学生への奨学支援を内容とした「介護人材育成プロジェクト」を推進。

定款の一部変更

副会長 5 人を 7 人へ、監事 1 人を 2 人へ、定款を変更しました。

特別決議

COVID-19 禍によるコンサート中止に伴い「枯葉剤被害者支援事業」履行が難しくなったため、「特別決議」をし事業基金の支援カンパを呼び掛けていきます。

※詳細は別紙、支援カンパ要請チラシ。

以上

2019 年度活動計算	
Ⅰ.経常利益	3,551,129
Ⅱ.経常費用	3,718,934
当期損益	-167,805
次期繰越	87,240

2019 年度貸借	
Ⅰ.資産	396,522
Ⅱ.負債	309,282
Ⅲ.正味財産	87,240

2020年度活動予算	
Ⅰ.経常利益	3,730,000
Ⅱ.経常費用	3,810,000
当期損益	-80,000
次期繰越	7,240

※詳細、貸借・資産表は HP でご覧ください。

2020 春ハザン省で奨学金支援

JVPF 宮崎県支部　溝口　究

２０１６年度から開始されたハザン省ヴィスエン郡寄宿中学校での奨学金支援事業（１８０ドル×４ヵ年）は、当初予定の４年目を迎え、一期生の最終年度となり今年卒業となります。現地の学校からの要望で継続して第五期生を支援することになりました。

40 人の奨学生、先生方、訪問団

2020年ハザン省ヴィスエン郡少数民族寄宿中学校奨学金贈呈式に参加して

2020年1月11日（土曜日）9時過ぎに、11人からなる日本からの訪問団は中学校に到着した。バスから降りると、生徒たちの手拍子が起こり、手拍子に迎えられて、学校の校庭であった贈呈式に臨んだ。校庭には舞台が併設してあり、舞台の上には贈呈式の横断幕と花が飾り付けられ、舞台わきには果物なども添えられていた。

校庭には大きなテントが張られ、その下に生徒と教師、さらに奨学金を受け取る生徒の保護者も参加して、総勢で400人近い参加者であった。

司会者によるあいさつの後、校長から歓迎のあいさつと、交流が続いていることと奨学金への感謝のあいさつが行われた。特に、奨学金が生活を助けていることに家族も感謝していることなどが話された。

訪問団の団長に指名された宮崎県支部の川畑匡さんから、歓迎に対するお礼のあいさつと、今回が4回目になることや、生徒からの手紙で置かれている厳しい現実がわかることなどが話された。特に、生徒たちが①医者になってハザン省のみんなを助けたい、②先生になって学校に行けない人に教えたい、などの夢を抱いており、これらの夢が実現できるよう勉強に励んでほしいことと、周りの大人が支えてほしいことを述べた。また、JVPF の奨学金制度はすべての皆さんを助けることはできないのが残念だが、夢に向かって懸命に頑張ってほしいことと、改めて盛大な歓迎に対する感謝の言葉を述べた。

その後、4年生から1年生まで、それぞれの学年につき10人ずつ、各県から参加した訪問団員から奨学金とお土産の贈呈が行われた。

生徒代表から、4年間にわたる交流に感謝し、金銭的と精神的な援助を受けて引き続き勉強に励むこと、ハザンまで来てくれたことに対し感激を永遠に忘れないことなど、お礼のあいさつと決意表明が述べられた。

その後、生徒たちの歌と舞踊による歓迎が行われた。あとで聞いたところによると、生徒たちはこの日のために練習に励んできたとのこと。民族衣装での踊りや、かわいらしい少女たちの歌など感銘を受けた。

生徒たちは、ほぼ100％高校に進学するとのことであったが、試験を受けて合格しないといけない高校と試験を受けなくてもよい高校があるようで、詳細については不明であった。現在の生徒数は、1年生（日本の小学6年生にあたる）が66人、2年生が62人、3 年生が60人、4年生が62人の合計250 人で、そのうち女性が169人、男性が81人と圧倒的に女性が多い。全寮制であり、成績で入学しているからということであった。ほかの中学校がどうなっているのかについて、聞くタイミングはなかった。

贈呈式終了後に、新潟県支部の角山優子さんによる書道の披露があり、生徒たちが「幸」や「福」など縁起の良い漢字を使った「幸福」「幸運」などと書いてもらおうと、角山さんの周囲に群がっていた。

その後に、**教職員**との意見交換があったが、通訳が必要なこともあり、突っ込んだ交流にはならなかった。また、言葉が通じないこともあり、奨学金を受けている生徒たちと積極的に交流できなかったことも残念であった。子供たちは、明るく、目をキラキラさせて訪問団を迎えてくれ、学校生活を楽しく過ごしている様子がうかがえた。

贈呈式と歓迎の状況などから、JVPF の奨学金制度が定着していることと、継続して取り組まれることへの期待も感じた。

上から：
・テト前だったので学生たちが式典の飾りつけをして出迎えてくれた
・歓迎の少数民族の踊り
・第一期生（今年卒業）代表が感謝の挨拶をした
・テト前で自家製のマンチュンを作ってふるまってくれた

寄稿 ベトナムの風にふかれて

～1 月の田植え（1）～

福井　宮﨑　勇雄

1. ハノイ空港の出迎え

ベトナムの首都ハノイ国際空港は、現地でノイバイ空港と称する。4 年前立派な国際空港が開設され、国内線は隣接する旧空港で運営している。だが、国際線から国内線に乗り換えるには、空港内を走る連絡バスを利用するしかない。羽田国際空港も同様で、15 分間隔で走行するバスは大変ありがたい。その乗車時間たるや狭い空港のはずなのに、10 分も乗車しなければならずどこか違う場所へ連れて行かれる様な気がしてならない。

ベトナムの玄関口に相応しく、総ガラス張りの洒落た空港建家は「フランスやフィンランド国際空港と何処か似ている」と、誰かが言っていた。私らは正月の松の内が明けた 1 月 10 日、寒い日本から 5 時間余のフライトで北緯 21 度のハノイへ到着した。機内から建家に移った瞬間「ホッ」と、誰もが暖かみを感ずるに違いない。ガラス張りの通路に出て歩くこと300m、次に入国審査に向かうや今度は長蛇の列、徐々に暑くなっても我慢しつつ今度はターンテーブルで待つこと長い。それでも我を忘れて、自分との覚しき荷物を受け、初めてベトナムの地を踏む。

もはや体温の上昇はピークに達し、顔面を紅潮しながら出迎え者の出番を待つこととなる。空港の到着ロビーは今や遅しとヤンヤの人集りで一杯だ。団体名を掲げたり個人名を待つ人など歓迎と雑踏で渦巻いている。面白いことに比較的暖かい国からの到着者は平常の呈に対し、少し寒い国からの入国者は紅潮した面持ちで直ちに判別するのである。もちろん羽田便は赤みを帯びた人ばかりで、東京との温度差が如実に物語っている。

空港の出迎えには、現地 JVPF 連絡員とベトナム日本友好協会スタッフのハノイ滞在者である。この両名とは 2 年前に面識あるものの一向にみつからないまま 30 分が過ぎる。と、突然「こんにちは」の日本語、驚くなかれ 2 年前の JVPF 連絡員で「白く美しくなったので・・・」と言葉を交わすと同時だった、山と積まれた荷物と羽田からの仲間が満身の笑顔で合流し喜びあう。

ハザンでの朝食はいつもホテル前のフォ―の店で

団員の一人はトイレでズボン下を脱いだとか、またある人は「ハザンではお金など要らない」と忠告されても両替に急ぐ、代り代りのトイレで時間は過ぎていく。それでも、みんなの顔がヤケに熱を帯びて、興奮状態にあった。

2. 最奥地ハザンの街

今回訪問するのは、ベトナムの残された秘境と言われるハザン省。ハノイから北へ310kmに位置、車の便しかなく道路事情も良くなく約6時間を要する地域にある。ベトナム全土で 8 割を占めるキン族に対し、54 の少数民族を抱える中でハザン省のキン族は少数派となっている。山々の北には中国国境に接する辺地であるだけに、目指す少数民族中学校だけでも 22 の民族が勉強に励む。

羽田から午後 2 時に到着した一行の車は、途中まで立派な高速道路だったが対面2車線の普通道路に入るや大きな街や集落では速度を落とすのだ。これじゃ時間も掛かると覚悟を決め、訪問の概略や日程と土産物の手配などを聞いて車窓を楽しむことにした。折しも田植えが始まっているではないか。しかも奥地へ行けば行くほど規模も大きく集落こぞっての作業に、私らの季節感は喪失していく。

途中トゥエンクワン省の大きな街で夕食だ。ターィ族の立派な建物がレストランで、小さなテーブルに 13 人が犇めき合うように、珍しいご馳走に舌鼓を打った。後談だが、この省は美人の産地として有名らしいが日没と重なって見当たらなかったのが残念と言わざるを得ない。夜が始まったばかりなのに、街中や集落にはイルミネーションが点灯し、テトが近いことを知った私たちだ。午後 9 時過ぎ、一段と美しい街明かりはハザンの街に入ったことを意味し、6 時間のフライト 6 時間のマイクロバスですっかり疲れ果てた。

翌日の午前5時、まだ暗い中なのに人々のざわめく声、久しいクラクションの音に目覚めて外を見渡せば歩道上に野菜など次々と並ぶ。近郷近在から採りたての新鮮な農産物を手に、テトまでに現金収入を得ようと集まるハザンの人達。峨々たる山が街に迫り中腹には美しい霧が横たわり、まるで東山魁夷の世界である。路上には 20 軒ばかりだが、私らが朝食に出かける時は完売して元の歩道に変わっていた。ハザンのホテルは食事が出ないので近くのレストラン、と言っても簡易食堂で名物の温かいフォーが楽しみである。

すでに現地 JVPF 連絡員が、店を確保し私らの到来を待っていた。「鶏と牛のどちら？」とフォーの注文、で多くの人は鶏を選ぶ。昨日の疲れが残るなか、朝の涼しい空気に温かさが全身に染みる。米で作った麺とスープの味がマッチし、絶妙な加減が一日の元気を取り戻してくれた。ホテルから徒歩 3 分の距離だが四方は鋭い山々に囲まれ、相当な奥地に来たのだと初めて驚くと同時に美しい山河に何故か郷愁を感ずる私たちであった。

※以下 3. 山間の少数民族中学校 4. 美しい棚田の山村 は、次号掲載予定

掲示板・短信

●東京 JVPF は 1 月 25 日（土）5 回目となるテトを祝う会を、留学生を招いて開催。今回の手作料理はフエの“ブンボー”。

●村山記念 JVPF 日本語学校の訪日団が村山富市会長の96歳の誕生日を祝うため3月2日、大分を訪問。村山富市会長は3月3日の誕生日で96歳を迎えられました。

●JVPF20 周年事業として 4 月 26 日から計画されていた「南部解放・統一 45 周年記念訪問団」は COVID-19 禍で中止。

●5 月 30 日の 13 回総会に併せて開催計画された「20 周年記念祝賀会」は中止。延期開催するかどうかは COVID-19 禍の模様を見極めることになった。

●2020 秋開催で準備されてきた枯葉剤被害者支援のためのベトナムアンサンブルチャリティーコンサートは、2021 年秋へスライドし開催。

●13 回総会では特別決議を行い『枯葉剤被害者支援事業』履行のため、事業基金を支援カンパで作ることを確認。

●**「化城宝処（けじょうほうしょ）」**という法華経の説話に触れる。先が見えない時でも「仮の目標を描き、向かい歩き続ける」ことで目標を達成する――ことだという。埼玉 JVPF の平松・副会長らは、条件が許せば年内に「仁愛の家」寄贈の基金を持参し訪越予定。

●広島 HVPF は“自粛”は“自縛”ではないと、ウェブサイトを駆使した活動を計画中。

●長年コンサートのバス配車で協力いただいている新宮章夫さんから、在日留学生への寄付でコメ 50 kgが届いた。早速、東京近隣で配布。

（記：KA）